〔釋名四飲食〕僨分也、粢粒各自分也、

〔毛詩註疏十七大雅之三〕洞酌彼行潦、挹彼注茲、可以餴饎、傳、○中略餴餾也、饎酒食也、箋（中略）餴甫云反、又作饋、字書云、一蒸米也、饎尺志反、（中略）餾力又反、又音留、爾雅、饋餾飪也、孫炎云、蒸之曰餴、均之曰餾、郭云、餴熟爲餾、○中略　疏（中略）正義曰、釋言云、饋餾稔也、孫炎曰、蒸之曰饋、勻之曰餾、郭璞曰、今呼餐者、脩飯爲饋、饋均熟爲餾、說文云、饋一蒸米也、餾飯氣流也、然則蒸米謂之饋、餾必餾而熟之、故言饋餾、非訓饋爲饎、饎酒食釋訓之、○下略

〔飯粥考〕片炊の義にて、強飯よりも格別に強きをいへるなるべし、

〔東雅十二飲食〕飯イヒ　倭名鈔、四聲字苑を引て、餐飯は半熟ノ飯也、漢語抄にカタカシキノイヒといふ、（中略）此間の俗に、凡ソ物の雙なるをモロといひ、隻なるをカタといふ、カタとは、猶半といふがごとし、半熟ノ飯をカタカシキといふは、其義なるべし、

〔倭訓栞前編加六〕かたかしぎのいひ　倭名抄に餐饋をよめり、半熟飯也と注せり、餐或は餐に作るもおなじ、

〔飯粥考〕和名抄釋義飲食部に餐飯片炊飯云々、按に、說文に、饋一蒸米也云々、劉熙が釋名に、饋分也、粢粒各自分也云々、爾雅に僨餾稔也、郭璞が注に、今呼餐飯爲饋、饋熟爲餾、疏に稔熟也云々などあるにても、餐饋は片炊の飯なることとしるべし、これに水を沃て再蒸たるが諸炊（モロカシキ）にて、常の強飯也、本草綱目二十五の卷造釀類部には、寒食飯、饋飯也とあり、その寒（ヒエ）たるまゝにて食ゆゑに寒食といへりと見ゆ、

〔類聚名義抄七米〕糒音篇ヒメ　糒糅糒索二音ヒメ

〔倭名類聚抄十六水漿〕糒糅　唐韻云、糒糅糒索二音、和名比女、或說云、非米非粥之義也、

〔箋注倭名類聚抄四水漿〕昌平本糒作扁、下總本作偏、按音扁與廣韻合、在上聲二十七銑、糒在二十八獮、偏在平聲二仙及去聲三十三線、則作扁爲是、昌平本下總本有和名二字、按比女、○中略又今假名曆日、正月有比女始、蓋謂年始食之也、又俗有比米粘、以此爲粘也、紀親宗曰、比女今俗平常所食之飯是類也、愚按、比女若是今俗平常所食之飯之類、則當在飯餅類、而源君收之水漿類、又引訓煮米

糒糅